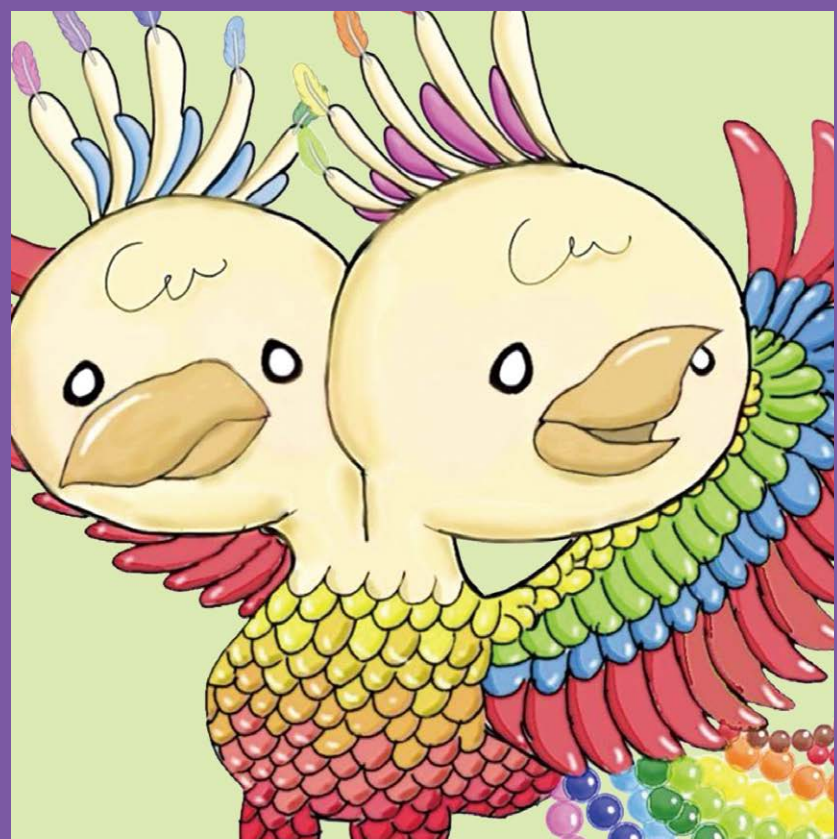


まこと

160



私たちの手で平和の種を育てよう！



「まこと」を手にと取ってくださったこの世界のどこかにいるあなたへ
 生まれた場所も
 今暮らしている場所も
 育ってきた環境も
 年齢も
 仕事も、違う
 仏教という縁がなければ
 出遇わなかったかもしれない
 そんな10人の若者が
 偶然の積み重ねの中で
 集い、話し、考え、
 この世界のさまざまな声に
 耳をすませ
 自らの思考を言葉にしていく
 目まぐるしく移ろい、
 そして、あらゆる音で溢れる
 この世界で

◆ 仏教青年連盟中央委員長
 近藤 翔真

今期の中央委員紹介

- ① 仏教との出会い
- ② 普段は何をしているか
- ③ 仏青でよかったこと



委員長
 長崎教区
 近藤 翔真

- ① 山梨出身で、実家は日蓮宗。畳のイグサやお線香のかおりは落ち着く。宗門校の武蔵野大学卒。浄土真宗系大学とは知らず、入学。これが転機となる。就職で、長崎へ。
- ② ドライブ中、読早市のお寺(長崎教堂)に立ち寄った時、「ようこそ」と僧侶(職員)さんに迎えられ、仏教青年会を紹介された。
- ③ 会社員。事務管理と人材開発の二つの部署を兼務。大学の同窓会の副支部長も。

副委員長
 高岡教区
 竹内 優美



副委員長
 奈良教区
 中尾 海

- ① 仕事の営業先がお寺でした。
- ② 最近の仕事は辞めたので、やりたい放題、自由きままに過ごしています。
- ③ 普段の生活では馴染みのない人たちと関わる事ができること！

- ① 子どもの頃からお世話になっているお寺をきっかけに、仏教に関わる機会が増えました。
- ② 仕事は営業職。趣味で絵を描いています。
- ③ 普段出会わないような人と出会えるのが楽しい！友だちが増えてうれしいです♪

- ① 釧路出身。祖父の葬儀がご縁。ご住職がとも気にかけてくださり、お寺の行事に参加していくうちに、青年会に関わるようになりました。
- ② 釧路のホテルに勤務。
- ③ 凡夫の私がこの世の中に生きることを恥ずかしく思っている。阿弥陀さまが救うとはたまたまかけてくださったというのを知ることができました。

東京教区
 小田 裕太
 北海道教区
 森谷 淳平



- ① 子どもの頃から、日曜学校などお寺に通う機会が多く、夏休みや冬休みも林間学校などに参加させていただき、日常の中にお寺がありました。
- ② 家電量販店で販売員。
- ③ 普段なかなか会えない、同世代の仲間と出会えたこと。

- ① 小学生の頃、母親の同級生である住職さんのお寺に行ったことがきっかけ
- ② ルート配送と営業
- ③ いつも通り過ぎていたら知り合えることのない人たちと出会えること



備後教区
 坂元 慎之介

- ① 子どもの頃からお世話になっているお寺の住職さんの紹介で、仏教青年会活動に参加しました。今は、佐賀教区 仏教青年連盟副委員長。
- ② ごみ収集作業車の運転が好き。
- ③ いろんな人と出会って、話す機会があるから。



佐賀教区
 小淵 翔平

- ① 実家がお寺
- ② 保育園の栄養士
- ③ 老若男女、さまざまな職種の方々と交流でき、いろいろな世界を知ることができること



山口教区
 川越 真理

- ① お寺の親鸞聖人750回大遠忌法要のポスターを見て、大いに参拝したこと。
- ② 葬儀社に勤務。
- ③ 仏教のことを語れる朋と出会えたこと。



岐阜教区
 田口 智規

- ① 子どもの頃から兄にくっついて、毎週日曜日になれば、お寺へ。自然とお寺に足を運ぶようになりました。中学生になってから、疎遠に…。このほど幼馴染みのお寺さんから声をかけていただき、中央委員のご縁をつないでくださいました。
- ② 調理師
- ③ 米津玄師、乃の曲をよく聞き、ライブを楽しみに日々暮らしています。



滋賀教区
 辻 光佐子

- ① 社会人となり、新しい仲間や友だちを作るきっかけが少なくなってきた中で、一つの目標に向かって、熱くなれる人たちに出会えたこと。



共命鳥
 キラン&アーシャ
 鳳凰
 スーリヤ



三瀬清一郎さんと語る

平和への座談会

文・近藤翔真（仏教青年連盟中央委員長）

三瀬 清一郎 みせ せいいちろう

1935年生まれ。伊良林国民学校5年生（当時10歳）の時、爆心地から3.6キロの自宅で原子爆弾の被害にあった。生家は建物強制疎開で撤去され、新住居へ移り住んだばかりであった。家族8人が暮らし父は出征へ。建物は爆風で損壊したが、家族は無事であった。現在は長崎市光源寺の門徒総代を務め、2015年から平和推進協会の語り部として活動している。

太陽が落ちてきた――

80年前、10歳の少年は、長崎に投下された原子爆弾を見て、そう確信し、命はここで尽きるのだと思ったと振り返る。その少年は、長崎市在住の三瀬清一郎さん（光源寺門徒総代）。昨年8月9日、長崎平和祈念式典で、「平和への誓い」を述べた。

「海外に目を向けるとウクライナやパレスチナなど戦火は収まるばかりか泥沼化しています。多くの子どもたちが命を落としています。この悲しい現実を目の当たりにして、戦争の愚かさから目をそらすことはできません」と世界に訴えた。

平和とは一体何か。私たちは、長崎市・光源寺日曜礼拝の平和講演をオンラインで聴講する機会に恵まれ、その後感想を語り合った。

「明日命があるかわからない」

そのひと言が印象的で、想像を絶する経験をされたことが伝わる。「夏休みが終わり、教室で出欠を取ると、そこにいるはずの同級生の返事がなく、同級生は原爆で亡くなっていた」とも。果たして自分だったら耐えられるだろうか、そう思いながら、お話を聞かせていただいた。

この日本は、終戦以来80年に渡って「戦後」「平和」という言葉を使い続けてきた。世界に目を向けてみると、今この瞬間にも多くの人々が戦場で命を脅かされている。自分の非力さ・有限さに思い悩むこともある。

世界の現状について、強いメッセージを訴える三瀬さんの姿にとっても勇気付けられた。

近藤 仏教が平和にどう貢献できると思いますか。

三瀬 私は光源寺さんの門徒総代をさせていた
ております。亡き先代のご住職や今のご住職から
常々「当たり前前の生活ができることが平和ですよ」
と聞いています。それが私の頭の中にあつたもの
ですから、皆さんや修学旅行生に私の体験を話す時に、
仏教との結びつきを感じます。仏教とは何か。私なり
の解釈をすると、お互いの心をわかり合えるような
生活を送ること、それが平和への道だと考えます。



オンライン

平和への座談会

竹内 能登半島地震でも、水や食べ物や命もどつ
なるのかわからない状況になりました。戦時中
はどのような思いで過ごしていましたか。

三瀬 戦時中、食べ物はなかつたです。兵隊さん
たちに送っていましたからね。山に行ったり、川
に行ったり、工夫していました。あの頃の親御さ
んは子どもを育てるのに本当に苦労したと思
います。朝昼晩、カボチャだけは当たり前。食べら
れるだけでもよかつた。そんなふうにして私たちは
命を繋いできました。

伊藤 新潟県長岡市でも80年前の8月1日に空
襲があり、語り部が高齢になる中で、ポランティ
アが次世代へ伝える活動をしています。長崎での
取り組みなどを教えてください。

三瀬 被爆者はあと10年、20年したらゼロにな
ります。これは長崎でも議論されています。体験談
を若い方が継承する家族・交流証言事業やビデ
オで残す取り組みがあり、広島でも同じです。

近藤 若者に期待したいことは何ですか。

三瀬 生き方は人それぞれ自由ですが、責任のある
生活と行動をとってほしいと思います。特に怖い
なと思うのはスマホです。お互いの顔を合わせたコ
ミュニケーションが責任ある行動につながります。
その基本がないと国同士でさえ分かり合えなくな
ってしまいますよね。散歩している犬でさえ鼻を合
わせて挨拶しているのに、挨拶をしない選択をするの
は人間だけです。コミュニケーションという基本が
私は一番大切なことだと思います。

中尾 形としての終戦を8月15日に迎えましたが、
日常に戻ったと実感したのはいつ頃でしょうか。

三瀬 安心して寝ること・遊べること・学校に行く
ことができる。そして安心して物事が言える。当時は
思ったことも自由に発言できなかった時代でした。
今は自分の意思を表明できる。これが大きなことで
あり嬉しいことなのです。

辻 戦時中の苦しい状況を思い出して話すこと
に抵抗はありませんか。

三瀬 10年ほど前にピースポットに乗って中
南米の中学生とお話した時、日本はどこかという質
問に誰も答えられなかつたのです。当然、原爆の
ことも知らず、そこに危機感を覚えて語り部とし
ての活動を始めました。米国でも原爆について知
らない人もいますが、若い方とお話すると、核
兵器には反対だと言う印象を多く受けます。昨年
10月、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)
がノーベル平和賞を受賞しました。今この座談会
も平和活動の一つです。皆さんも今日の話をご家
族や身近な人へ話していただけたら、少しでも私
の話がお役に立てるのではないかと思います。今
日は皆さんに平和の種を一粒ずつお渡しさせて
いただきました。

この手にしている平和の種を、
土に植え、芽を出し、根を張り、
花を咲かせるよう育てていくのは
他の誰でもない私たち自身であるだろう。



座談会を終えて

川越 学校へ行くこと、勉強すること、遊ぶこと、食べること、寝られることなど当たり前だと思っていたことが平和だったのだと改めて気づかせていただきました。コミュニケーションを取り、お互いのことをよく知ることが、平和に繋がることがわかりました。今でも何処かで大切な命が脅かされている現実があります。世界の人々と共に平和な暮らしができるよう伝承していかねければならないと感じました。

宇治 戦争に入っていく中で、「いつの間にか言いたいことが言えなくなってしまっていた」と仰っていたことが印象的でした。メディアやSNSで流布された曖昧な情報によって「事実」がつけられていく風潮は、私たちのあやふやな正義感引いては戦争とすぐく相性が良いと思います。「本当は思ってるけど言えない」社会が来る前にそれぞれに出来ることは何か。

辻 情景が生々しく浮かぶよつで、目を背けたくなるような事実がたくさんありました。「名前も住所もわからない人達が、知らない人に焼かれる。これが戦争」。戦争は、人の身体や心に、苦しみ、悲しみを永遠に刻む残酷な暴力であることを改めて思い知りました。そんな事態が今なお世界で繰り広げられています。もっとコミュニケーションに重きをおき、他者を尊重する必要があると感じました。



長崎の空は、
今日も青い。

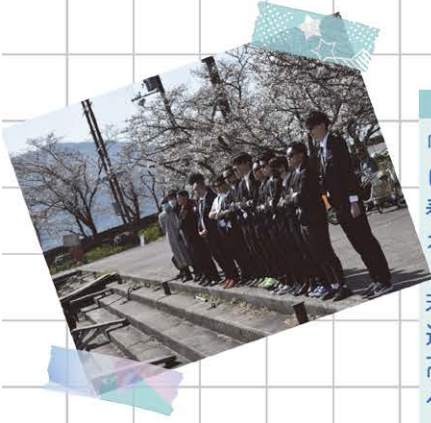


中尾 クラスメイトが空襲で亡くなったり、学校が遺体を運び込む場所として使われたり、まとめて火葬しなければならなかったり、とても生々しいお話を聞かせていただきました。満足に食べられない、ゆっくり寝られない、いつもの授業も受けられないなど、戦争が日常の一部になった。今ある平和がいかに大切で守り続けなきゃいけないか、本当の意味での平和は遠いのではないかとこの思いになりました。

簡単なことではないのかもしれませんが、私はこの先二度と戦争が起きず、今世界で起きてる戦争もどうか終わりを迎えて欲しいと心から思います。だからこそ私たちは戦争を体験された方のお話を聞き、どれだけ悲惨なことでも実際に起きたことだと受け止めて、これからの世代に語り継いでいきたい。そして今と未来の平和に繋げていきたいと思えます。

各教区活動報告!

滋賀 逃走中



「時間内に逃げ切れるのか?!」
日本一大きな湖「琵琶湖」に浮かぶ有人島「沖島」で、春休みに開催している人気番組「逃走中」のオマージュイベント「逃走中 in 沖島」。

若い世代とお寺をつなぐ「ご縁づくり」。
逃走者は小学生50名、対するハンターは高校生・大学生から社会人まで幅広い年齢層で構成。ハンターが逃走者から逃げる「逆逃走中」から始まる。

その間、「謎解き」「お寺参拝」など、さまざまなミッションも。
そして、最後に「逃走中」。
逃走者もハンターも真剣勝負。
両者ともよい汗を流していた。



佐賀 子ども食堂

佐賀市にある佐賀教堂(お寺)で子ども食堂をしました。

仏青会員でカレーライス100食分を作り、子育て世代の親子をはじめ、宗門校の龍谷高校サッカー部の部員に届けました。

練習でおなかが減っていた部員たちは楽しみにしていて、届けたカレーをとても美味しく食べてくれました。

その後教堂で、スタッフのみんなとカレーライスを食べました。朝からの作業で少し疲れましたが、いい経験ができ、楽しかったです。



北海道 寺コン



北海道の東部、釧路市にある本行寺で、仏教の教えに説かれる「ご縁」を大切にしようと開催しているのが、「寺コン」。いわゆる「恋活(こいかつ)」というイベントです!

参加されるのは、ご門徒だけではなく、仏教のことにあまり関心なかったという方も。

参加理由は「真剣に人と会おうとする人に会える場所だと思った」「お寺という空間、概念にひかれて」など、さまざま。

今後も「ご縁」をテーマに、イベントを催していきます!

